



TOKYO SEITOKU
UNIVERSITY

東京成徳大学大学院

心理学研究科臨床心理学専攻 修士課程・博士後期課程

公認心理師養成カリキュラム対応

臨床心理士受験資格第1種指定校

学校心理士受験資格カリキュラム対応



SCHOOL GUIDE BOOK 2026

1 心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程

Admission policy

アドミッション・ポリシー

建学の精神、大学の教育理念のもと、1998年の開設以来、本研究科修士課程は、現代の複雑化した社会のなかで「心理支援の専門家」として社会貢献できる人材を養成することを使命としてきた。現在、多くの修了生が学校や病院、役所や会社などの心理職として活躍している。今後は、多様な人々を支援できる「成徳の精神をもったグローバル人材」の育成をめざし、この使命を果たしていきたい。

それゆえ、本研究科修士課程は「心理支援の専門家」としての基本的な資質と知識を有し、心理支援を学問として支える臨床心理学ならびにそれに関連する分野の学修と研究に熱意と強い意志を持っている人を求めている。

Curriculum policy

カリキュラム・ポリシー

建学の精神、ならびにそれに基づく「成徳の精神をもったグローバル人材育成」のために、本大学院の修士課程は、臨床心理学ならびにこれに関連する他の分野の専門的知識を修得し研究する能力を高めるほかに、心理支援に関する実践的スキル、さらにそこでの社会性・倫理観・法規の知識を身につけることにも力を注ぐ。

教育課程は、必修科目と選択科目から構成し、学生が公認心理師の受験資格と臨床心理士の受験資格を満たすことができるようになっている。必修科目については（公財）日本臨床心理士資格認定協会が必修と指定している科目（臨床心理学特論、臨床心理面接特論、臨床心理査定演習、臨床心理基礎実習、臨床心理実習）のほかに、修士論文の作成に必要な心理学研究法演習および臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱとする。また、公認心理師となるために必要な科目である保健医療分野に関する理論と支援の展開等の科目や、臨床心理学に関連する他の分野の心理学等を選択科目とする。また授業科目は、講義の授業を中心とし知識の育成を図る「特論」、実際の問題を討議し応用能力を開発する「演習」を開設する。さらに心理支援を実践的に学ぶ授業として「実習」を設ける。

Diploma policy

ディプロマ・ポリシー

建学の精神「有徳有為な人間の育成」ならびにそれに基づく「成徳の精神をもったグローバル人材育成」のために、社会において貢献できる「心理支援の専門家」として必要な下記の知識や能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定し、修士（心理学）の学位を授与する。

- ① 「心理支援の専門家」に求められる社会性と倫理観および法規の知識
- ② 臨床心理学に関する知識と応用能力
- ③ 臨床心理学に関連するほかの心理学の分野や精神医学等の知識と応用能力
- ④ 心理学の研究についての知識と能力
- ⑤ 心理支援についての知識と能力

学びの特長

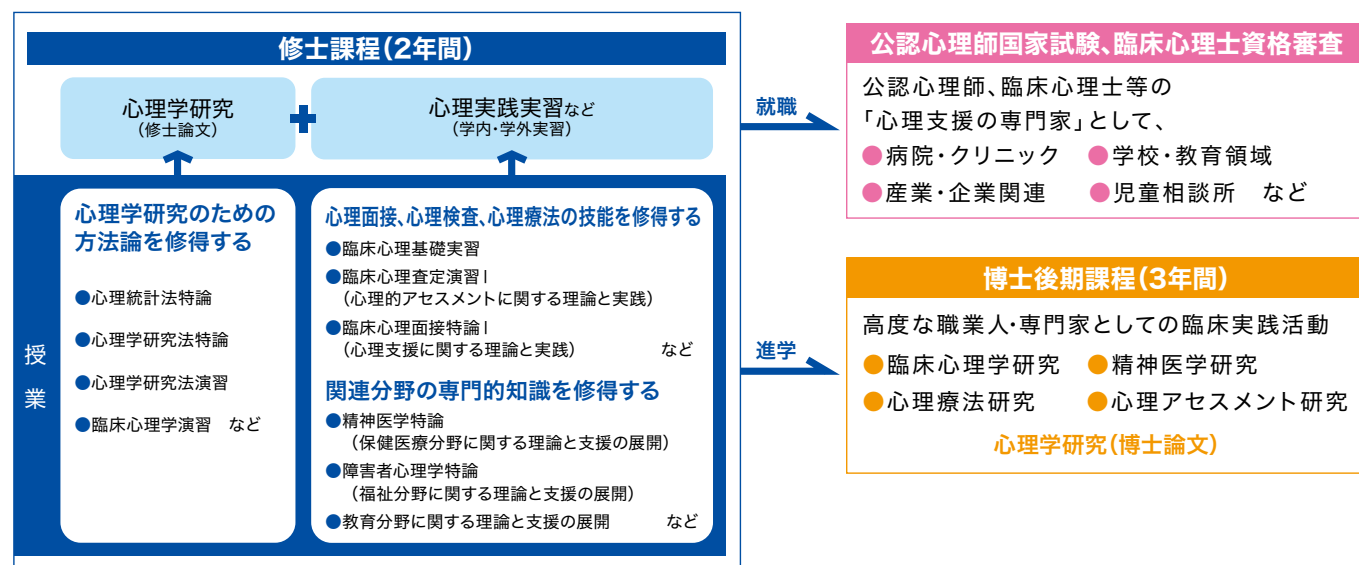
「心理支援の専門家」として 必要な知識と能力を身につける

公認心理師・臨床心理士、学校心理士等の「心理支援の専門家」の養成をめざして、「教育」、「保健医療」、「福祉」、「産業・労働」、「司法・犯罪」に関する分野を幅広く学び、社会の様々な場面に対応できる教育課程を用意しています。

開講科目は公認心理師養成に対応した上記5つの分野の科目の他に、心理的アセスメント、心理支援、家族関係・集団・社会地域における心理支援、心の健康教育に関する科目があります。また、臨床心理士養成に対応した科目も用意しています。心理実践実習等を心理・教育相談センター及び幅広い分野の実習先で行うのも特長です。なお、修士課程在学中に必要な科目を履修し単位を修得することで、修了後、公認心理師、臨床心理士、学校心理士の受験資格が得られます。

ただし、本大学院修士課程において公認心理師受験資格を得るには、出身学部において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目の単位を修めて卒業していることが条件となります。

■学びの領域



■学びのポイント

① 充実した臨床指導体制

併設された心理・教育相談センターでの学内実習と、医療領域(病院やクリニック)、教育領域(学校や教育関連施設)などで心理実践の現場体験ができる学外実習を行います。現場に出て実際の経験を積むことにより、生きるカウンセリングや心理アセスメント、チーム支援を学び、心理支援の専門家としての実践力を高めます。また全員参加が必須の受理会議、事例会議や担当教員による指導(スーパービジョン)も行っています。

② 専門的知識と豊富な経験をもつ教員

「教育」、「保健医療」、「福祉」、「産業・労働」、「司法・犯罪」等さまざまな分野を専門とする教員が揃っており、各分野における専門的な知識と実践を学修・研究することができます。

③ 充実した学修環境

院生研究室には一人ひとりに専用の学修デスクやロッカーを完備しており、学修や研究に専念できる環境を整えています。また同キャンパス内に応用心理学部があり、大学院生と大学生が協力しながら学修・研究する機会も多くあります。さまざまな経験をもった大学院生や博士後期課程の研究者が学んでいるため、お互いに刺激しあいながら相乗効果を生み出しています。

資格取得 公認心理師

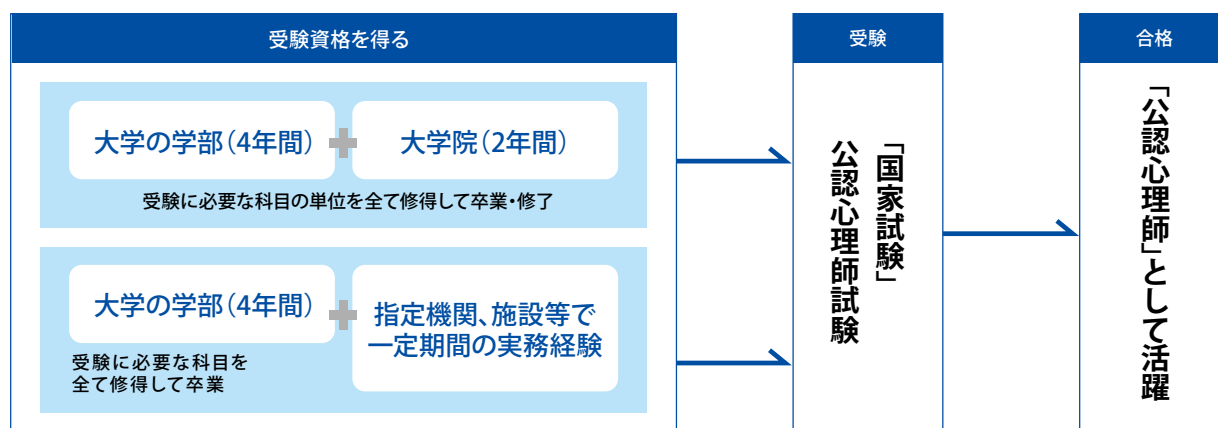
“こころの専門家”初の国家資格「公認心理師」

公認心理師とは？

2017年9月に公認心理師法案が施行され、心理職で初となる国家資格「公認心理師」が誕生しました。公認心理師は心理のプロとしてさまざまなフィールドで活躍することが期待される国家資格です。教育、保健医療、福祉やその他の分野で「心理学に関する専門的知識や技術をもって、心理に関する支援を必要とする人や、その関係者の相談に応じて援助を行ったり、心の健康に関する教育を行ったりする専門家」です。

公認心理師になるためには？

国家試験を受験し合格する必要があります。本大学院は修士課程で公認心理師の養成カリキュラムに対応していますので、所定の要件を満たすことで受験資格を取得できます。国家試験の受験資格を得るには、以下の2通りの主要な方法があります。



「公認心理師」受験資格取得のための指定科目

法令上の科目名	本学開講科目名	年次	単位数
保健医療分野に関する理論と支援の展開	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1	2
福祉分野に関する理論と支援の展開	障害者心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	1	2
教育分野に関する理論と支援の展開	教育分野に関する理論と支援の展開	1	2
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	1	2
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1	2
心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1	2
心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	1	2
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	1	2
心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論と実践	1	2
心理実践実習	心理実践実習Ⅰ	1	1
	心理実践実習Ⅱ	1	1
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ)	2	1
	心理実践実習Ⅳ	2	1
	心理実践実習 A	1	2
	心理実践実習 B	2	2
	心理実践実習 C	2	2

(注) 上記の科目のほか、所定の選択科目2科目を履修することで、学校心理士の申請条件を満たすことができます。

資格取得 臨床心理士

臨床心理士受験資格第1種指定校です。

大学院修了後、実務経験不要で受験資格の取得が可能

本大学院心理学研究科臨床心理学専攻修士課程は、2003年度公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会から臨床心理士受験資格第1種指定校の認定を受けました。これにより、在学中に必要な科目を履修し、単位を修得することで、大学院修了後に実務経験なしで臨床心理士資格審査試験を受験できます。都内にある倍率の高い伝統校として、これまでに数多くの臨床心理士を輩出しています。

2024年
臨床心理士資格審査試験

合格率 **75.0%**

※全国平均66.1%
公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会ホームページより

臨床心理士になるためには？

公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会が実施している資格試験に合格する必要があります。資格試験の受験に際しては、臨床心理士養成に関する大学院を修了するといった要件を満たすことで受験資格を得ることができます。



※本大学院で学修した場合の例になります。その他の受験資格は公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会のホームページをご確認ください。

「臨床心理士」受験資格取得のための指定科目

本学開講科目名		年次	単位数
必修科目	臨床心理学特論Ⅰ	1	2
	臨床心理学特論Ⅱ	1	2
	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	1	2
	臨床心理面接特論Ⅱ	1	2
	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1	2
	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	1
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	1
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ)	2	1
	臨床心理実習Ⅱ	2	1
選択必修科目	A群 心理統計法特論	1	2
	心理学研究法特論	1	2
	B群 人格心理学特論	1	2
	発達心理学特論	1	2
	学習心理学特論	1	2
	C群 犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	1	2
	家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	1	2
	D群 精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1	2
	障害者心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	1	2
	神経生理学特論	1	2
	E群 投影法特論	1	2
	心理療法特論	1	2
	グループアプローチ特論	1	2

■資格取得に向けた充実のサポート体制

難関である公認心理師や臨床心理士の資格試験。本大学院では、修了生の夢実現のため年数回にわたり、対策講座や練習問題を解く会、模擬試験等を実施しています。充実の体制で合格をサポート。毎年高い合格率を達成しています。

1

特別講座・対策セミナー
試験対策の専門家を招聘

2

模擬試験

3

練習問題を解く会

■修士論文テーマ

2023年度論文題目

論文題目
自己批判がポジティブ・フィードバックへの反応に及ぼす影響
青年期の社交不安傾向が援助要請に与える影響 ——ソーシャルサポートを媒介変数とした検討——
特性不安と社交不安が注意バイアスに及ぼす影響：情動ストループ課題を用いて
中学不登校生徒のWANTSを反映したNEEDSおよび支援の一考察 ——不登校経験者への回顧法によるインタビューを通して——
心の傷との付き合いについての一考察
ロールシャッハ法の母親カード選択における母子関係の影響
スクールカースト体験を持つ大学生の心理的状態
同調行動が青年の適応感に与える影響 ——規範的影響、情報的影響、FoMOの観点から——
HSPの情動伝染が精神的健康に及ぼす影響
周囲児にとっての特別な教育的ニーズのある児童生徒と共に学ぶ経験の構造 ——教員による説明・教育の影響を中心に——
中・高校生の相談活動に関する肯定的評価と負担感 ～ボランティア的ヘルパーと役割的ヘルパーの観点から～
人生の流れの中で捉える「親になること」「親であること」

2024年度論文題目

論文題目
中学生の学習上のつまずきと回復に関する研究
青年期における「推し」の存在と精神的健康
育児の危機を乗り越える過程の探索的研究 ——親の語りからの分析を試みて——
友人関係にある難聴者と健聴者の会話における コミュニケーションブレイクダウンとrepairに関する事例的検討
『書道療法』の試み～慢性期統合失調症等患者を対象とした実践から～
感覚処理感受性の高い人における、ぬいぐるみを抱くことのリラクゼーション効果
青年期の居場所と心理的状態との関連
理想自己と現実自己の差異を認識した時の対処法とその過程 ——心理社会面に注目して——
心理的支援における寺院の役割-日蓮宗僧侶へのインタビューを通して-
後期高齢者の“よく生きること(better-being)” ——日本舞踊コミュニティにおける高齢者の実践のひろがり——
展望記憶と衝動性：課題への従事は予定の記憶を妨げるか？
感情語彙と自他の感情認識が共感性に及ぼす影響

心理実習について

臨床心理実習、心理実践実習は、心理支援の専門家としての実践的資質を培うことを目的とした重要な科目です。

学内実習と学外実習とがあり、1年次、2年次それぞれ計画的に実施します。また、1年次後期からスタートする学外実習は、教育分野や保健医療分野などの心理実践の現場で行われます。これらの実習は実習指導担当教員(SV)の指導のもと実施されます。

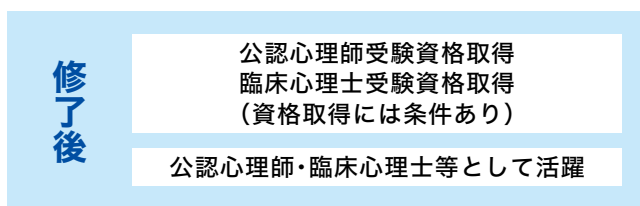
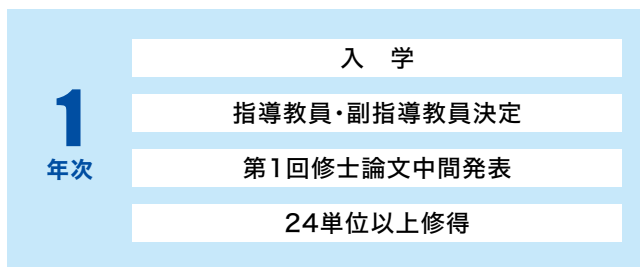
1年次

- ①心理実践実習Ⅰ・Ⅱ及びAを履修、模擬カウンセリング実習
- ②受理会議・事例会議への出席
- ③教育分野における心理実践の現場実習

2年次

- ①心理・教育相談センター（学内）における主として相談担当
- ②受理会議・事例会議への出席
- ③グループ及び個別スーパービジョン
- ④教育分野や保健医療分野等における心理実践の現場実習

■修士課程修了までの流れ



博士後期課程へ

高度な理論の追求と臨床経験を踏まえながら、臨床心理学の専門知識と応用実践の両面に秀でた高度職業人、カウンセラーの指導者、研究者を目指します。

修了要件

本大学院修士課程に2年以上在学し、履修授業科目について33単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者には、研究科委員会の議を経て、学長は修士課程の修了を認定し、修士の学位を授与する。

取得できる学位

修士(心理学)

取得できる資格

- ・公認心理師国家試験受験資格
- ・臨床心理士資格試験受験資格
- ・学校心理士資格認定試験受験資格

※所定の科目を履修し、単位を修得し修了することが条件となります。また、公認心理師は4年制大学において、所定の心理学の科目を履修していることが条件となります。

修了後の進路

学校・教育機関

現代の子どもたちを取り巻く諸問題に対して、適切なカウンセリングや予防、そして開発的な対応ができる専門家として活躍。

医療機関

疾病・悩みを抱えた患者に対する支援。心理査定や心理療法的な関わり方の専門家として活躍。

産業界

企業で働く人々のキャリア開発や、ストレスマネジメント、メンタルヘルスに関する支援をする専門家として活躍。

児童相談所、障がい者施設など

子どもや障がい者に対し、心のケアや生活向上を目指せるように心理的な支援を行う専門家として活躍。

心理・教育相談センター

心理・教育相談センターは、「地域の方の相談の場」であるとともに大学の教育研究機関として、さらには公認心理師・臨床心理士等の心理支援の専門家養成のための実習機関の役割も担っています。

当センターは、5つの面接室と幼児や小学生の遊戯療法に使用する大小2つのプレイルーム、観察室、受付で構成されています。センタースタッフは、所員と非常勤所員、相談員(専門訓練を受けた本大学院学生)からなり、初回面接は原則として所員・非常勤所員が、継続面接は相談員が担当します。この体制で、乳幼児から高齢者の方々のさまざまな問題や悩みの相談をお受けします。

受付時間 / 10:00~16:30(月~土)

面接時間 / 初回面接 90分、継続面接50分

料 金 / 初回面接 3,100円、継続面接 2,100円、親子並行面接 3,100円



2 博士後期課程

本課程は、臨床心理学に関わる高度職業人およびカウンセラーの指導者を養成することと、臨床心理学分野について、より専門的・自立的・創造的に研究する高い能力をもった研究者の養成を目的にしています。発達臨床心理分野と学校臨床心理分野及び障害者心理分野の3つから成り立っており、入学時にこの研究分野から分野選択をし、研究分野に関連した授業を履修するとともに、指導教員の指導のもとに特定の研究テーマについて、研究を進めます。

Admission policy

アドミッション・ポリシー

建学の精神、大学の教育理念のもと、2003年の開設以来、本研究科博士後期課程は、「高度の心理支援の専門家」として実践し研究する能力のある人材を養成することを使命としてきた。現在、本課程を修了して博士号を取得した人が大学等で活躍している。今後は、多様な人々を支援できる「成徳の精神をもったグローバル人材」の育成をめざし、この使命を果たしていきたい。

それゆえ、本研究科博士後期課程は心理支援に関する基本的な能力を有し、心理支援を学問として支える臨床心理学ならびにそれに関連する分野の知識を有し、かつそれらの分野の研究および教育に熱意と強い意志を持っている人を求めている。

Curriculum policy

カリキュラム・ポリシー

建学の精神、ならびにそれに基づく「成徳の精神をもったグローバル人材育成」のために、博士後期課程の教育課程は、研究および教育の能力ならびに応用力を身につけるための「研究」と「演習」から構成する。また高度の実践的能力を育成する「実習」も設ける。

いずれの科目も必修科目はなく、学生が自分の希望に合わせて選択できるようにする。

Diploma policy

ディプロマ・ポリシー

建学の精神「有徳有為な人間の育成」ならびにそれに基づく「成徳の精神をもったグローバル人材育成」のために、臨床心理学ならびに他の心理学の分野の研究および教育能力を身につけた「高度の心理支援の専門家」として必要な下記の知識や能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定し、博士(心理学)の学位を授与する。

- ① 「高度の心理支援の専門家」に求められる
深い教養と社会性や倫理観および法規の知識
- ② 臨床心理学の研究および教育についての知識と能力
- ③ 臨床心理学に関連する
ほかの心理学の分野の研究および教育についての知識と能力

専門的・自立的・創造的に研究する 高い能力をもった研究者の養成

■開講科目

区分	分野	開講科目名
選択必修 右記いずれかの分野を 選択し、 単位を修得すること	発達臨床心理分野	発達臨床心理学研究
		発達臨床心理学演習Ⅰ
		発達臨床心理学演習Ⅱ
		発達臨床心理学演習Ⅲ
	学校臨床心理分野	学校臨床心理学研究
		学校臨床心理学演習Ⅰ
		学校臨床心理学演習Ⅱ
		学校臨床心理学演習Ⅲ
	障害者心理分野	障害者心理学研究
		障害者心理学演習Ⅰ
		障害者心理学演習Ⅱ
		障害者心理学演習Ⅲ
選択	共通分野	臨床心理学研究・カウンセリング研究・心理アセスメント研究・心理療法研究・精神医学研究・発達臨床心理学実習・学校臨床心理学実習・障害者心理学実習

■博士論文テーマ

2023 年度論文題目

論文題目
●職業選択志向性に着目したキャリア教育プログラムの検討—境遇活用スキルに焦点を当てて—
●発達障害のある大学生の大学生活支援に関する研究—大学環境およびスキル・自己理解に焦点をあてて—

2024 年度論文題目

論文題目
●McCloskey理論を用いた実行機能のアセスメント—特別な教育的ニーズをもつ子どもへの適用をめざして—
●早産児家族への心理的ケアの探求—当事者研究視点に基づく家族感情と支援方法の探索—
●予備校生の先延ばし行動に関する研究—学習課題先延ばし行動尺度の作成と先延ばしの認知—

■博士後期課程修了までの流れ

1 年次	入 学
	指導教員・副指導教員決定
	研究テーマの決定
	博士論文中間発表
	16単位程度修得

2 年次	データの収集と分析
	博士論文中間発表

3 年次	博士論文中間発表
	博士論文題目提出
	博士論文提出
	博士論文最終試験
	20単位以上修得
	大学院修了・博士(心理学)学位取得

修了要件

本大学院博士後期課程に3年以上在学し、履修授業科目について20単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格した者には、研究科委員会の議を経て、学長は博士後期課程の修了を認定し、博士の学位を授与する。

取得できる学位

博士(心理学)

修了後の進路

教育者・研究者

大学や短期大学などの高等教育機関で、博士号を持つ高度な研究者として、さらなる高度な研究活動をし、教育活動に従事する。

心理学の専門家

行政、企業、研究所、学校、病院、相談所など、各種心理学関係の機関・組織で、専門職者として活躍する。

リーダーとなる専門家

心理支援の専門家をはじめ、様々な領域で活躍する心理コンサルタント従事者を指導し、そのリーダーとなる専門的職業人として活躍する。



茂呂 雄二

心理学研究科長 教授

修 博

出身大学等 東京教育大学、筑波大学大学院 博士(教育学)
専門領域 言語心理学、発達・学習心理学、パフォーマンス心理学

ことばは心理師・臨床心理士にとって大切な武器であり、重要な道具です。ことばでコミュニケーションすること、対話すること、ことばを通して他者理解することの不思議さと奥深さについても学んでください。そして、ことばを使うプロになってください。

研究内容	パフォーマンス心理学に基づく発達支援・学習支援
主な著書・論文	ダン・フリードマン著 茂呂雄二訳(2025)『パフォーマンス・アクティヴィズム』(新曜社) 茂呂雄二ほか(編著)(2024)『新しい言語心理学』(ひつじ書房) 茂呂雄二(2024)『ソーシャルセラピューティクス—ことばのパフォーマンス・アート』木下康仁ほか(編著)『ヘルスヒューマニティーズ—相互回復の実践・教育・研究』(新曜社) 茂呂雄二ほか(編著)(2019)『パフォーマンス心理学入門』(新曜社)



一谷 幸男

応用心理学部長 兼 臨床心理学科長 教授

修 博

出身大学等 東京教育大学 筑波大学大学院 博士(医学)
専門領域 生理心理学、実験心理学、行動神経科学

心理職としての知識・技能を学ぶとともに、これからの心理師(士)はますます問題解決能力が必要になると思います。大学院では仲間や教員との議論・交流を通して、リサーチマインドを身につけてほしいと願っています。

研究内容	記憶・学習の生理心理学、行動薬理学、精神疾患の動物モデル
主な著書・論文	神経伝達物質と行動 廣中直行(編) 実験心理学の新しいかたち 誠信書房(2004) Pp. 71-93. 記憶と学習の神経科学 筑波大学感性認知脳科学研究プロジェクト(編) 感性認知脳科学への招待 筑波大学出版会 (2013) Pp.171-181, 195-196. 神経システムの基礎 梅田 聡(編)第10巻 神経・生理心理学 野島一彦・繁樹算男(監修) 公認心理師の基礎と実践 遠見書房(2021)Pp. 26-39. Dissociable anterograde amnesic effects of retrosplenial cortex and hippocampal lesions on spontaneous object recognition memory in rats. Hippocampus (2012) 22:1868-1875. Involvement of hippocampal NMDA receptors in encoding and consolidation, but not retrieval, processes of spontaneous object location memory in rats. Behavioural Brain Research (2017) 331: 14-19.



沢宮 容子

心理・教育相談センター長 教授
臨床心理士
学校心理士

修 博

出身大学等 筑波大学大学院 博士(心理学)
専門領域 臨床心理学、カウンセリング心理学

心理専門職に就くことは、すなわち「生涯教育」を続けるということに他なりません。大学院はその基盤を形成するための大切な場所となります。共に学び、共に成長していきましょう。

研究内容	認知行動療法・論理情動行動療法・動機づけ面接等に関する基礎研究および臨床応用
主な著書・論文	『現代の臨床心理学5 臨床心理学と心の健康』(編著)東京大学出版会、2023 『新版カウンセリング心理学ハンドブック』(共著)金子書房、2024 『公認心理師技法ガイド—臨床の場で役立つ実践のすべて』(共著)文光堂、2019 『日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ』(共著)医歯薬出版、2018 『臨床実践を導く認知行動療法の10の理論「ベックの認知療法」から「ACT」・「マインドフルネス」まで』(共訳)星和書店、2012



井上 忠典

教授
公認心理師 臨床心理士
1級キャリアコンサルティング技能士

修 博

出身大学等 筑波大学 筑波大学大学院 教育学修士(心理学)
専門領域 臨床心理学

心理士(師)の仕事は、知識や技術を身につけるだけではできません。最終的にはその人の人間性が問われます。人間性を磨くのは、人との出会いです。どのような人と出会い、何を体験するのが何よりも大切です。

研究内容	青年期の対人関係と心理的適応 催眠療法・自律訓練法
主な著書・論文	『自律訓練法(現代のエスプリ396)』(共著)至文社、2000 『臨床心理学からみた生徒指導・教育相談』(共著)ブレン出版、2004 『スタンダード臨床心理学』(共著)サイエンス社、2015



田中 速

教授
医師 公認心理師

修 博

出身大学等 筑波大学医学専門学群 医学士
専門領域 司法精神医学、臨床精神医学

犯罪、非行、依存症、ギャンブル、LGBT など、まだまだ多くの人が携わっていない分野の臨床や研究に興味のある方の受験を歓迎します。

研究内容	精神障害者の刑事責任能力評価 同意によらない精神医療の最適化 医療観察法審判における修復的司法(特に被害者加害者対話) 成年後見制度 物質使用障害(薬物、アルコール依存) 行動嗜好(ギャンブル障害等) セクシュアルマイノリティのメンタルヘルス
主な著書・論文	『司法精神医学3 犯罪と犯罪者の精神医学』中山書店、2005 『シリーズ生命倫理学第9巻 精神科医療』丸善出版、2013 『医療観察法審判における修復的司法の可能性について』 『臨床精神医学雑誌』第36巻 第9号1101-1105, 2007



西村 昭徳

教授
公認心理師 臨床心理士

修 博

出身大学等 東京学芸大学、東京成徳大学大学院 博士(心理学)
専門領域 臨床心理学、発達臨床心理学、学校心理学

社会経験が豊富な方、学部卒業後のフレッシュな方、子育て経験をお持ちの方、それぞれの問題意識に基づいた、有意義な学びが期待できる大学院です。

研究内容	●教師のメンタルヘルスに関する研究 日本版 MBI-ES の標準化、項目反応理論を用いたメンタルヘルス・セルフチェック・オンラインシステムの構築、学校内外の相談体制および援助者間の連携、小学校、中学校のスクールカウンセリングにおける組織づくり、SCと教職員の連携における葛藤マネジメント ●子どもに対する心理的支援に関する研究 「児童生徒への対応をめぐる教職員間の葛藤と対処方略—葛藤状況及び教職員に対する認知的評価の視点から—」(学校メンタルヘルス ,8,p57-67, 2005).
主な著書・論文	『子どもの成長を支える発達教育相談』(北樹出版、第5、7、9、12章担当、2011). 『小学校および中学校教師におけるバーンアウトの進行プロセスに関する縦断的研究』(心理臨床学研究 , 31, p769-779, 2013)



石隈 利紀

修博

特任教授
公認心理師
学校心理士スーパーバイザー ガイダンスカウンセラー

出身大学等 アメリカ合衆国アラバマ大学大学院 博士課程行動研究科
学校心理学専攻 Ph.D(学校心理学)
専門領域 学校心理学、スクールカウンセリング、多文化間心理学

真に実力を備えた「心理支援の専門家」の育成には心理学に関する幅広い知識と心理臨床の現場における実践経験が不可欠です。充実したカリキュラムと豊富な知識と経験を備えた教員スタッフによる指導を行っています。『学び続ける気持ち、人との役に立ちたい気持ち』を大切に、当事者、実践家の敬意をもって、現場に役立つ研究と一緒にやりませんか。

研究内容	学校における公認心理師の活用、心理教育的援助サービス 特別支援教育、異文化・多文化間コンサルテーション、危機支援、子どものレジリエンス
主な著書・論文	『教育・学校心理学第3版』(編) 遠見書房、(2024) 『スクールカウンセリングのこれから』(共著) 創元社、(2021) 『石隈・田村支援チームシートによるチーム援助入門』(共著)、図書文化(2018) 『やさしくわかる生徒指導提要ガイドブック』(共編) 明治図書 Ishikuma,T.,Matsuda,O.,Fujita,K.,&Ueno,K.(2016)Intellectual assessment of children and youth in Japan: Past,present,and future.International Journal of School&Educational Psychology,4 Iechika,S.&Ishikuma,T.(2021) Influence of functions of a coordination committee on teachers' psycho-educational support. Japanese Journal of School Psychology,20, 1-19.



佐藤 章子

特任教授
公認心理師 臨床心理士

出身大学等 慶応義塾大学、東京都立大学大学院 修士(心理学)
専門領域 臨床心理学、精神分析的心理療法

心理職として活躍するためには、専門的な理論の習得とそれに基づく実践が鍵になります。その間をつなぐのが学内・学外実習によるものです。現場に出てからどのように援助しようか迷った時に立ち戻ることのできる基礎をしっかりと学んでいきましょう。

研究内容	思春期・青年期の心理療法 母子並行面接における母親への心理的援助
主な著書・論文	『公認心理師 合格テキスト』誠文堂新光社 2019 分担執筆 『徹底図解 心理学』新星出版社 2008 分担執筆 『思春期・青年期の臨床心理学』 培風館 2008 分担執筆



中村 聡美

特任教授
公認心理師 臨床心理士

出身大学等 青山学院大学大学院 博士(心理学)
専門領域 病院臨床、認知行動療法、産業ストレス

知識やスキルが臨床の場でどう活かされているかを知ることのできる実習は貴重な機会です。将来、支援を求める方々に心理専門職として向き合うための基礎を大学院で共に学んでいきましょう。

研究内容	医療分野における心理支援、休職者・就労者への心理的援助 認知行動療法に関する臨床研究
主な著書・論文	『集団認知行動療法の進め方』(分担執筆) 培風館、2020 『うつ病休職者の集団認知行動療法に関する混合型研究』(単著) 風間書房、2018 『カウンセリング実践ハンドブック』(分担執筆) 丸善株式会社、2011 『集団認知行動療法によるうつ病休職者のストレス処理の変容過程』(単著) カウンセリング研究, 51 巻: 1-13, 2018



根津 克己

修

准教授
公認心理師 臨床心理士 シニア産業カウンセラー

出身大学等 千葉大学文学部行動科学科
東京成徳大学大学院心理学研究科修士課程 修士(心理学)
東京成徳大学大学院心理学研究科博士後期課程 単位取得退学
専門領域 認知行動療法、学生相談、カウンセリング、ストレス、産業心理学

大学院を選ぶということは、この先どのような臨床家になるかを考える上で、とても大きな選択となります。資格取得だけではなく、自分の持ち味を活かせ、そして磨けそうな場を選択してください。

研究内容	認知行動療法に関する基礎研究、対人不安に関する研究 学生相談、ソフトウェア開発技術者のストレスカウンセリング
主な著書・論文	『はじめて学ぶ人の臨床心理学』中央法規出版、2003 分担執筆 『最近の新入社員の特徴、傾向』心とからだのオアシス 2009 『過剰適応者の反すうに対するメタ認知療法的介入の検討』 東京成徳大学大学院心理学研究科臨床心理学研究 2017 共著



阿部 宏徳

修博

准教授
公認心理師 臨床心理士

出身大学等 大阪市立大学、大阪市立大学大学院、
筑波大学大学院 博士(心理学)
専門領域 心理アセスメント、人格心理学、EMDR

本学は教員も院生さんも高い意欲が自慢です。来年、みなさんと一緒に学び、励めることを期待しています。

研究内容	ローレルシャッハ・テストの把握型システムの改良 心理アセスメントや心理療法に関係するツールの開発 EMDR
主な著書・論文	阿部宏徳 (2005) インクプロット把握における色彩の重要性-色から見た把握型 ローレルシャッハ法研究、9, 15-24. 阿部宏徳・岩佐和典 (2011) 視空間的ワーキングメモリ推定における組織化された良質な全体反応の有効性 心理臨床学研究, 29, 109-113. 阿部宏徳 (未公刊) 大学講義におけるリアルタイムアンケートの有効性 - 受講意欲や理解の促進に注目して- 東京成徳大学 臨床心理学研究, 19.



石村 郁夫

准教授
公認心理師 臨床心理士 指導健康心理士

出身大学等 筑波大学、筑波大学大学院 博士(心理学)
英国国立ダービー大学大学院
専門領域 ポジティブ心理学、健康心理学、
コンパッション・フォーカスト・セラピー

人が苦しみや悩みを抱えているときにそっとそばにいて話を聞いてあげる。それだけでこころが救われて自然と力が湧き出てきて前を向けることがあります。時には人生を一変させる体験にもなりえます。シンプルそうに見えて、奥深い心理臨床の世界を皆さんとご一緒できるのを楽しみにしております。

研究内容	感情障害へのコンパッション・フォーカスト・セラピーの治療マニュアルの作成と効果の検証(基盤B) ポジティブ心理学的介入法に抵抗する諸要因の検討とその臨床的工夫に関する研究
主な著書・論文	『トラウマへのセルフ・コンパッション』(金剛出版)2018年 『ストレスに動じない"最強の心"を手に入るセルフ・コンパッション』(大和出版)2019年 『コンパッション・マインド・ワークブック あるがままの自分になるためのガイド』(金剛出版)2021年 『コンパッション・フォーカスト・セラピーに基づいたアンガーマネジメント: 真の強さを育てるために』(星和書店)2021年



菊池 春樹

修博

准教授
公認心理師 精神保健福祉士

出身大学等 筑波大学、筑波大学大学院 博士(ヒューマン・ケア科学)
専門領域 発達臨床心理学、子ども精神保健、障害者心理学
福祉分野における心理臨床、多職種連携と地域連携

食欲に学ぶ学生と教員が多く、刺激的な環境だと感じています。
より良い臨床家になるための実践と研究の1歩1歩、進むのがしんどく
なった時の立ち止まる意味、どんな環境だったら味わうことができるのか、
ぜひ、確かめにきてください。

研究内容	思春期・青年期の発達障害者支援に関する研究 家族心理教育プログラムの開発 子どもとケア提供者の関係に焦点をあてた研究 医療と教育の連携、子どものケースワーク
主な著書 ・論文	『「社会による子育て」ハンドブック』(岩崎学術出版)分担執筆 「自閉症スペクトラム障害の思春期における性的な行動に関するアセスメントツールの作成」 児童青年精神医学とその近接領域, 52 (1), 2011 早産児家族交流会の機能－観察調査による家族の感情の分析から－ 日本周産期・新生児医学会雑誌59 (3), 2023(共著)



江口 めぐみ

修博

准教授
公認心理師 臨床心理士

出身大学等 早稲田大学、筑波大学大学院 博士(心理学)
専門領域 発達臨床心理学、臨床心理学

心を扱う仕事では、相手への敬意と確かな知識や技術、日々の研鑽が必要
です。大学院でその基礎を身につけてください。

研究内容	児童期・青年期の主張性(アサーション)、主張における他者配慮、選択性臆 黙(場面臆黙)の理解と支援
主な著書 ・論文	「主張性と児童の内的・外的適応との因果関係－短期縦断的検討－」 心理学研究, 85, 191-199, 2014 「なぜ主張の際に他者配慮をするのか?－大学生における理由の検討－」 立正大学心理学研究紀要, 16, 2018 「選択性臆黙に対する大学生の理解と支援観の検討」東京成徳大学臨床心 理学研究, 19, 2019 「看護を学ぶ人のための心理学(第2版)－ヒューマン・ケアを科学する－」 (分担執筆)弘文堂, 2023



塚田 知香

修

准教授
公認心理師 精神保健福祉士
シニア産業カウンセラー

出身大学等 早稲田大学大学院博士後期課程単位取得満期退学
専門領域 産業ストレス、産業・組織心理学

現場に出ると、大学院でもっと学んでおけばよかったと思うことがたくさん出
てきます。教員との交流もしやすいこの大学院で、知識だけでなく、それぞれの教
員の経験に裏付けられたスキルなどもたくさん学んでください。

研究内容	企業組織を対象とした職業性ストレス研究 組織特性と企業従業員のメンタルヘルスの関連についての研究 ワーク・エンゲイジメント、大学生のストレス
主な著書 ・論文	「個人の資源としての心理的ウェルビーイング－JD-Rモデルにおける幸福感の位 置づけ－」(東京成徳大学心理学研究, 1, 3-14, 2024, 共著) 「HSPの情動伝染が精神的健康の及ぼす影響」(東京成徳大学心理学研究, 1, 57-65, 2024, 共著) 「感覚処理感受性の高い人における、ぬいぐるみを抱くことのリラクセーション効 果」(東京成徳大学心理学研究、印刷中、共著) 「ワーク・エンゲイジメントの国内での研究動向および浸透について」(東京成徳大 学経営学部経営論集, 2017, 共著) 「ワーク・エンゲイジメント～基本理論と研究のためのハンドブック～」(皇和書店、2014、分担翻訳) 「階層線形モデルを用いた職場ストレスの検討」(産業・組織心理学研究, 2011、単著)



別府 さおり

修博

准教授
公認心理師

出身大学等 筑波大学、筑波大学大学院 博士(心身障害学)
専門領域 特別支援教育、障害心理学、福祉教育

様々な経歴の大学院生の仲間や教員と、共に学べる貴重な場です。皆さん
と一緒に考え、一緒に学んでいけることを楽しみにしています。

研究内容	障害児者の心理と支援、特別支援教育、福祉教育、教師教育
主な著書 ・論文	特別支援教育のとおき授業レシビ(分担執筆 学研 2015) 医療的ケアが必要な子どもに関する保育士の理解と保育園での受け入れに ついての意識(福祉心理学研究 第17巻 2020 共著) 知的障害教育に携わる教師の職能成長と学びの特徴特別支援学校(知的障害)勤務 経験と知的障害教育の専門性に着目して (特殊教育学研究 60巻 2023 共著) フィードバックを伴う問題解決過程におけるプランニングと創造性言語的指標 を中心とした分析による検討 (東京成徳大学心理学研究 1巻 2024 共著)



小高 佐友里

助教
公認心理師 臨床心理士 特別支援教育士

出身大学等 法政大学大学院 博士(心理学)
専門領域 学校臨床心理学、特別支援教育

自分自身と真摯に向き合い選んだ道の先には、明るい未来が待っていると
信じています。みなさんの選択お手伝いができれば幸いです。

研究内容	スクールカウンセラーによる学校危機予防教育 ソーシャル・エモショナル・ラーニング(SEL)の実践 発達性読み書き障害児および周辺児への支援
主な著書 ・論文	「スクールカウンセラーによる学校危機予防教育－ソーシャル・エモシ ナル・ラーニングの導入－」風間書房 2022(単著) 「中学校におけるスクールカウンセラーの予防教育への取り組み－SELの 実践と効果－」教育実践学研究, 21, 27-50, 2018(単著) 「発達性読み書き障がい周辺児に関する言語能力特性の検討」読書科学, 57, 47-54, 2015(共著)



子どもたちの心を受け止められる スクールカウンセラーになりたい

池上 潮理 さん

福島大学教育学部卒業後、県内の中学校教諭となる。定年退職後、上京して本研究科に入学。2023年に修了。現在は福島県内においてスクールカウンセラーを務めている。

東京成徳大学大学院に入学した動機は

中学校教諭をしていた時から心理学に興味があり、2017年には学校心理士の資格を取得しました。在職中は部活動の指導などもあって多忙だったため、一人ひとりの生徒と話す時間が少なかったという反省がありました。定年退職後はスクールカウンセラーとして改めて生徒と向き合いたいと思ったことが臨床心理士を目指すきっかけ。本研究科に入学したのは、学校心理学の分野で高名な石隈先生とお会いした際に、その気さくで誠実な人柄に惹かれ「この先生のもとで学びたい」と思ったからです。

本大学院で得られたものは？

教師をしていた時は生徒の不適切な言動を本人の努力で改善させようと指導していました。本研究科でさまざまな視点から心の問題を学んだことで、一人ひとりの特性を大事にしながら、いかに支援し

ていくかを第一に考えるようになりました。昨年から地元に戻ってスクールカウンセラーをしています。困ったことがあれば本研究科の先生方に相談できるという心強さを感じながら第二の人生を踏み出すことができました。今後も研鑽に励み、生徒・保護者の声を受け止めていきたいと思っています。

お金のやりくり法

学費と生活費は退職金で賄いました。大学院に近い学生向け賃貸住宅で生活していましたが、近所には物価が安くて庶民的な商店街があったので、そこで買ってきた食材での自炊を心掛けました。

私のオススメ科目

●教育分野に関する理論と支援の展開
学校心理学やスクールカウンセラーに興味のある方にお勧めの科目です。困り感を抱える子どもとの

関わり方や心理学的援助の在り方、発達障害のある子どもへの対応などについて幅広い視点から学ぶことができます。

●心理学研究法特論

研究計画の立案から論文作成、発表までのプロセスを先生が作られた説明動画とグループワークによって学ぶ科目です。私は少なからず苦労しましたが、この授業の経験が修士論文を作成する際に大いに役立ちました。

●心理実践実習Ⅰ

学生同士でカウンセリングのロールプレイを行い、それを録画した映像と逐語記録をもとに複数の先生方から指導を受ける科目。厳しい指摘や励ましの言葉をいただいたことでカウンセリングスキルが向上しました。



大学院は、より現場に近い学びの場。 実習でのリアルな経験が、今役に立っています。

大庭 健司 さん

東京成徳大学応用心理学部臨床心理学科にて心理学を学んだ後、本研究科へ。2023年修了。現在は、市教育センターで教育相談員として週2日、公立高校で校内別室指導員として週3日勤務。

東京成徳大学大学院に入学した動機は？

将来、心理師になろうと決めたのは、高校2年のとき。公認心理師という国家資格ができたことで、これからもっと働きやすくなるし、可能性も広がっていくだろうと思ったのが決め手でした。資格をとるルートはいくつかありますが、やるからにはしっかり研究者の世界に入りたいと思ったので、大学から院へ進むことにしました。東京成徳を選んだのは、教育分野に強いからです。

本大学院で得られたものは？

学部で学ぶのは基礎中の基礎、みんなに当てはまること。しかし大学院では、今本当に困っている人、より現場に近い事例を学んでいきます。最初はそれがうまく理解できずに前に進めない自分がいて、悩むこともありました。しかし、教授にいいに指導していただいたり、同期の仲間たちと話し合ったりする中でヒントを掴んだりしながら、乗り越えていくことができました。

学ぶ環境は？

同期は18名、自分のように教育分野に進みたい人、医療やケアの分野を目指す人、あるいはすでに教育現場で働いていて社会人経験のある人などいろいろです。価値観も考え方もさまざまな人たちと

異なる目線で話し合う機会があったことは、今の仕事にもとても役立っていると思います。

教授が優しいので接しやすく、誰でもアポ無しでフランクに研究室を訪ねていける環境だったのもよかったです。

大変だったこと、苦労したことは？

大学院の学びでは、明確な答えのない課題が多くあります。そんな課題に対しても、教授はなぜ私がそう回答したのか聞きながら、無意識に考えていたことを指摘してくれたり、また別の視点を提示してくれたり、的確に指導してくださいました。実施の現場でも答えのないことがかりなので、この経験は大いに役に立っています。

お金のやりくり法

学費は基本的に奨学金で賄い、生活費は家庭教師や塾講師などのアルバイトでやりくりしていました。勉強との両立は楽ではありませんでしたが、それでも楽しかったと思っています。

私のオススメ科目

●グループアプローチ特論
1対1ではなく学級や組織などの集団に対して、心理的に介入する技術を学びます。将来、教育現場

で働くことを想定していた自分にはとても有意義でした。

●心理実習

週に1回、定時制高校に出向いて、先輩心理士の指導のもとでカウンセリングを行います。訓練生という立場ですが、彼らにとっては関係ありません。目の前の私を、本当に「支えてくれる人」と思って接してきます。自分も一支援者として何かしなければいけない、という状況に直面したことはとてもよい経験になりました。

この実習は、私自身の将来を見直すきっかけにもなりました。以前は、発達障がいなど障がいをもつ子どもたちの支援をしたいと思っていたのですが、今は、家庭環境や労働環境などさまざまな生きにくさを抱えた子どもたちの支えになれたらと思っています。

入学を検討されている方へのメッセージ

いろいろな分野の教授、さまざまな志向の仲間たちと、心理支援について語り合ったり、話を聞いて経験を吸収できる環境がここにはあります。漠然と心理学をやりたいけど何をしたいのかまだわからないという人も、反対にやりたいことが明確にある人も、どんな思いをもって入ってきた人もとても勉強になる場だと思います。

5 学納金など

(単位:円)

		修士課程				博士後期課程					
		初年度		2年次		初年度		2年次		3年次	
		入学手続時	後期	前期	後期	入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期
	入学金	※3 300,000	—	—	—	※4 ※5 300,000	—	—	—	—	—
学納金	授業料	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000
	施設設備費	220,000	—	220,000	—	220,000	—	220,000	—	220,000	—
諸会費	翠樟会(後援会) 入会金 ※1	※3 10,000	—	—	—	※4 ※5 10,000	—	—	—	—	—
	翠樟会(後援会) 年会費 ※1	10,000	—	10,000	—	10,000	—	10,000	—	10,000	—
	同窓会 終身会費 ※2	10,000	—	—	—	※5 10,000	—	—	—	—	—
合計	半期	900,000	350,000	580,000	350,000	900,000	350,000	580,000	350,000	580,000	350,000
	年額	1,250,000		930,000		1,250,000		930,000		930,000	

※1 翠樟会(後援会): 本学全学生の保護者またはこれに準ずる者(外国人にあつては保証人)は、東京成徳大学翠樟会(後援会)に加入していただきます。

※2 同窓会: 本大学院を修了した者は、東京成徳大学大学院心理学研究科同窓会の会員となります。

※3 本学出身者(学部卒業見込者、学部既卒者)が修士課程に入学する場合、入学金150,000円、翠樟会(後援会)入会金0円となります。

※4 本学出身者(学部卒業生)が博士後期課程に入学する場合、入学金150,000円、翠樟会(後援会)入会金0円となります。

※5 本大学院修士課程修了生が博士後期課程に入学する場合、入学金0円、翠樟会(後援会)入会金0円、同窓会終身会費0円となります。

※授業科目の特性上必要とする実習については、別に実習費を要する場合があります。

※上記のほか、学納金及び諸会費に係る事務手数料が必要となります。

6 修学支援

日本学生支援機構奨学金

経済的理由により修学が困難にある優れた学生等に対し、学資として奨学金が貸与されるものです。この奨学金は貸与制のため、大学院修了後に必ず返還しなくてはなりません。

奨学金には無利子の第一種奨学金と、有利子の第二種奨学金があり、第一種と第二種の貸与を併せて受ける(併用貸与)こともできます。

課程	種別	利息	貸与月額
修士課程	第一種	無利子	50,000円または88,000円から選択
	第二種	有利子 (3%上限) ※在学中は無利息	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択
博士後期課程	第一種	無利子	80,000円、122,000円から選択
	第二種	有利子 (3%上限) ※在学中は無利息	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択

特に優れた業績による返還免除制度

日本学生支援機構の第一種奨学金の貸与を受けた学生で、在学中に特に優れた業績をあげた者と認定された場合、貸与期間終了後に奨学金の全額または一部(半額)の返還が免除されます。

その他の奨学金

日本学生支援機構奨学金の他に、地方公共団体や民間育英団体等の奨学金もあります。これらは、大学を仲介するものと本人が団体に直接申請するものがあります。本学に届いた募集案内は、掲示板などによりお知らせします。

学長賞

学修や研究ならびに、心理支援や学生生活などにおいて、顕著な活動を行った1名に授与される賞です。表彰は、学位記授与式において、賞状及び副賞が贈呈されます。

研究科長賞

学修や研究ならびに、心理支援実習、学生生活などにおいて、優れた活動を行い他の学生の模範となる学生(2名)に授与される賞です。

図書館長賞

図書館を活用して優れた学習活動を行い、他の学生の模範となる学生1名に授与される賞です。

7 オープンキャンパス 2025

大学院学生や修了生、教員からリアルな大学院生活を聞けるチャンスです。
また、公認心理師に関する情報提供も行います。ぜひこの機会に東京成徳の雰囲気を体感してください!!

●開催内容(予定)

◎大学院概要説明 ◎施設見学 ◎教員・在学生による個別相談

●開催日程

	日程	会場
第1回	6月22日(日)	東京成徳大学大学院
第2回	7月13日(日)	
第3回	8月3日(日)	
第4回	12月20日(土)	

事前登録制

※開催内容や時間などを本学ホームページにてお知らせします。
本学ホームページで詳細を確認のうえ、ご参加ください。



8 入試情報 2026

※出願方法は、「Web出願」となります。「web出願」の方法は、入学試験(出願資格、出願手続等)についての詳細とあわせ、2025年6月発行予定の「学生募集要項」でご確認ください。

修士課程(募集定員:18名)

●日程

	出願期間(最終日必着)	入試日	合格発表日	入学手続締切日
1期	2025年8月8日(金)～8月25日(月)	2025年9月2日(火)	2025年9月9日(火)	2025年9月19日(金)
2期	2026年1月7日(水)～1月19日(月)	2026年1月31日(土)	2026年2月9日(月)	2026年2月26日(木)

●試験科目:筆記試験(英語または小論文)、専門科目、口述試験

※筆記試験「小論文」は、次の条件に該当する方のみ選択することができます。

2026年4月1日現在で、大学を卒業して3年以上経過する者(職業経験の有無は不問)、またはそれに準じる者。なお、後者の「準じる者」として小論文を選択する場合は、出願までに条件に該当するか必ず本学にご相談ください。

博士後期課程(募集定員:3名)

●日程

出願期間(最終日必着)	入試日	合格発表日	入学手続締切日
2026年1月7日(水)～1月19日(月)	2026年1月31日(土)	2026年2月9日(月)	2026年2月26日(木)

●試験科目:筆記試験、口述試験

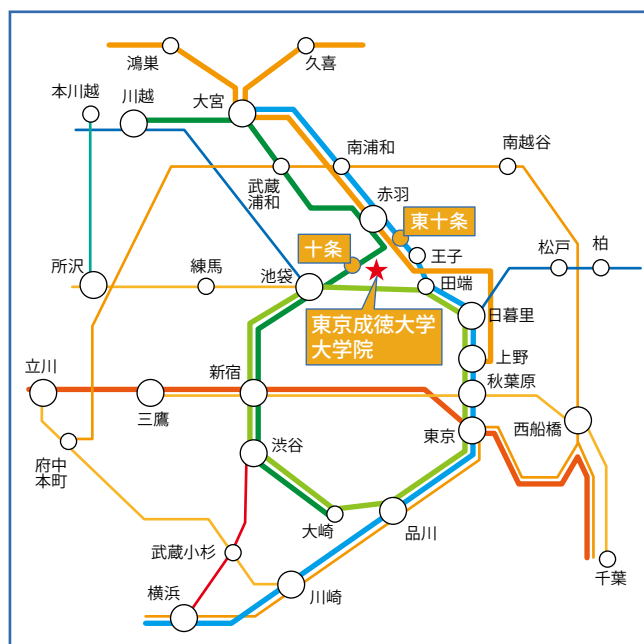
※筆記試験において、臨床、人格、発達、教育・学校心理学等についての教育研究上の実績を有している場合、事前に教育研究業績書を審査し、筆記試験を免除することがあります。詳細は、学生募集要項でご確認ください。

●研究テーマについて

研究テーマや研究計画等について、必ず出願前に希望する本学大学院指導担当教員と相談してください。「Web出願」時に希望指導教員名、志望分野の入力が必要です。P.10～P.12「教員紹介」でご確認ください。



- ・JR 埼京線「十条駅」南口から徒歩 約 5 分
- ・JR 京浜東北線「東十条駅」南口から徒歩 約 10 分



TOKYO SEITOKU
UNIVERSITY

東京成徳大学大学院

入試広報課

〒114-0033 東京都北区十条台1-7-13 E-mail nyusi@tsu.ac.jp

 0120-711-267

資料請求

<https://www.tsu.ac.jp/graduate-school/>
ホームページよりお申し込みください。

大学院HP

